

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-a-Bs											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ベーシストとしての基礎を固めると同時に、音楽をより深く理解し、イメージを持って演奏出来るようになることを目指す。 ダイアトニックコードスケールや他のスケールを徹底的に反復練習を行い習得する。 またフィンガリングトレーニングやコード分散和音など基礎的な技術・知識を習得し、アンサンブルにおける正確なリズム、フレーズを提供できるようにトレーニングする。オリジナル楽曲でのベースライン構築を行えるように基礎技術と基礎知識を身に付けることを目的とする。											
到達目標											
ベーシストとしての基礎をしっかりと身に付けること。1年次修了ライブでのオリジナル楽曲のベースラインを作成し弾くことを目標とする。 また基礎知識・基礎技術を身に付け、多ジャンルの楽曲に対応できるようにする。 ジャンルに分かれたベースラインを分析しその機能を理解し、自分の中でのベースラインのアイディアを蓄積することもプロフェッショナルとして必要である。そのためにも基礎技術、知識を徹底的に習得することも目標の1つとする。											
授業方法											
この授業では、基本的なリズムやビートなどのベーシストにとって重要な概念の理解とその演奏能力の向上、音楽理論の基礎概念の理解を中心に授業を進める。 フィンガリングトレーニング、スケール、コード構成音、トラディショナルチューンの譜読み等フィジカル・メカニカルなトレーニングが主となり楽器自体をコントロールできるようなレッスン											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。 配布資料・譜面は毎回持参、毎回行ったレッスン内容の反復練習を欠かさず行う事。 特にフィンガートレーニングは毎日の日課にするよう行っていく事。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ダイアトニックコードとスケールについての理解										
第2回	ドリアンスケールの理解										
第3回	ドリアンスケールと調性の理解										
第4回	ブルーススケールと調性についての理解 シャッフルビートについての理解										
第5回	ブルース形式の理解と演奏										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシック レッスン2-a-Bs	
第6回	ブルースのコード進行とスケールについての理解
第7回	16ビートの様々なエクササイズ
第8回	16ビートフレーズの正確な演奏
第9回	16ビートフレーズの構成についての理解と正確な演奏
第10回	16ビートのリズムの構成、シンコペーションの理解
第11回	コードトーンのアルペジオについての理解
第12回	16ビートフレーズの正確な演奏
第13回	16ビートフレーズとダウンビートの関係の把握、正確な演奏
第14回	アルペジオのフレーズについての理解
第15回	全体を正確に演奏し切る集中力

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-a-Dr											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
テンポ、アクセント、さまざまなジャンルのリズムを習得し、セッションの現場での対応力を養う授業。現場でドラマーとしてやっていく自信につながるのは、常に充実した基礎力と瞬時に応用に変えられる経験の豊富さによります。授業内で、常に発表会形式で、習得したことを講師、学生の前でプレイすること、自分のプレイするドラミングの分析、解説をさせる。フレーズを聞いている学生からもその場でフィードバックのコメントを受けられ、日々成長を感じる授業となっている。ドラミングの基礎テクニックをつけ、あらゆる種類の楽曲に対して対応できる力を2年で完成させる授業。											
到達目標											
自分の好きなパターンばかりではなく、さまざまなジャンルのフレーズを習得することを目標としている。苦手なリズムをなくし、個人レベルで様々なフィールを表現できるようにするには、日々の練習と出来上がった自分のドラムプレイの分析、そして、再構築。常に出来上がった自分のプレイに対して、分析と再構築の意識を植え付ける。プロの現場では、同じパターンでもさまざまな抑揚、雰囲気を要求される。その対応力を身につけさせ、音楽に対する意識を高める。											
授業方法											
グループによる授業であるが、個人個人の中でのレベルアップを目標にする。基礎的な部分が完成した者は、プラスアルファの課題を追加していく、基礎も不安定な者はテンポダウンして着実に体に入れる。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
ドラミングはもちろんだが、この授業ではドラムの採譜、読譜にも力を入れる。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	様々な音符を安定させる（メトリカル・アッチェレ&リット）										
第2回	ゴーストノート、2拍3連、4拍3連										
第3回	リズムの読み替えテクニック										
第4回	異なるグルーピングの同時進行										
第5回	ボサノバ、サンバ、バルチド・アウト										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-a-Dr	
第6回	カリブソ、ソカ、スカ、レゲエ
第7回	マンボ、チャチャ、ルンバ、ソンゴ
第8回	ジャズドラミング
第9回	ルーディメンツ＋スウィングフィール
第10回	16分裏の正確さ
第11回	キメの多い曲に乗せての安定感
第12回	ロックやポップス内での応用
第13回	1曲内でのフィールの変化に対応させる
第14回	5、7、9拍子のプレイ
第15回	一年間のまとめ

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-a-Gt											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、ギターを通じて様々なジャンルや演奏に触れ、音楽そのものに対する興味をより深めていきながら、その技術を学んでいくことで、常に自分だけのプレイスタイルを模索し続けて行く姿勢を学ぶ。											
到達目標											
基本的な演奏技術を身につけながら、プロギタリストとして必要な一般知識をトータルで学ぶと同時に、あらゆるジャンルの音楽を通して、より実践的な演奏スタイルを構築していく。自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。											
授業方法											
この授業では、読譜、スケール、コードヴォイシング、イヤートレーニング、リズムトレーニングなどを相対的に学ぶ。メトロノームやバックシンクトラック、予め用意した課題曲やマテリアル等を活用した実技レッスン。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、理由のない遅刻・欠席は認めない。また学生間、講師と学生とのコミュニケーション力向上のために、なるべく自己から発言する機会を増やして行く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	Rockスタイルを理解する										
第2回	Bluesスタイルを理解する										
第3回	Funk系16ビートを理解する										
第4回	バウンス、スイング系スタイルを理解する										
第5回	Latin & Bossa Nova系スタイルを理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-a-Gt	
第6回	基本エチュードを演奏する
第7回	応用エチュードを演奏する
第8回	ベンド、ビブラート（課題曲:Sleep Walk）
第9回	課題曲の演奏発表（課題曲:Sleep Walk）
第10回	スライド、ダブルストップ（課題曲:September）
第11回	課題曲の演奏発表（課題曲：September）
第12回	7thコード上でのコードトーンの確認、理解（課題曲：The Chicken）
第13回	7thコード上でのインプロビゼーション（課題曲：The Chicken）
第14回	リズム、コード進行の理解（課題曲：Room335）
第15回	部分転調によるインプロビゼーションの方法を理解する（課題曲：Room335）

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-a-Key											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この授業ではジャンル別にマッチングした演奏家を目指すべく右手・左手の独立からコードボイスिंगなど多角的な演奏実習を行います。毎回の授業で鍵盤の基本練習である指ならしから行い、鍵盤に慣れていくところからしっかり指導していく。											
到達目標											
基本的な鍵盤演奏技術を身につけながら、鍵盤を「音楽ツール」として有機的活用できる能力を持つ。自己の音楽的な目標に「柔軟な音楽性」をプラスして演奏到達度を高める。											
授業方法											
主にシンセパートの特訓。曲をリード譜を使用し構成・キー・リズム・ジャンルを理解することから実際に様々な年代のポップス・ヴォーカル曲の伴奏をピアノで実演するための指導を行う											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
授業内容的に実技的要素が高い為、必ず復習と練習をしましょう。ひたすら常に弾き続けることにより習得が確実なものになります。遊び感覚のシュミレートで弾いているだけでも十分効果はあります。どんな音でも構いませんので、聞こえてきた音を徹底的に鍵盤で表現してみましょう。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	基本コードの復習。（フォームを大切に）										
第2回	転倒注意です！トライアドの転回練習										
第3回	7 t h コードの導入。度数の感覚を手に入れよう										
第4回	7 t h も基本2音か3音でキメる（ベースの存在を意識しよう）										
第5回	指定されたコード進行のコード演奏										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシック レッスン2-a-Key	
第6回	8ビート・バラードの伴奏パターン（コンピング）
第7回	8ビート・アップテンポの伴奏パターン（コンピング）
第8回	ハウス系の伴奏パターン（コンピング）
第9回	両手演奏の導入 コードを左右分けて演奏しよう
第10回	エレピの種類や音色を知ろう
第11回	エレピの種類や音色を知ろう
第12回	両手演奏でかっこ良くキメる。左手はコード、右手はフレーズ
第13回	完全音程の演奏に慣れよう！4th、5th、Octave
第14回	ドラムの感覚でリズム演奏してみよう
第15回	見極めチェック 1年次の内容確認 演奏・評価

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-a-Ba											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	橋本佳紀			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
臨時記号や調合などの基礎知識はもちろん、自身の楽器の表現可能音域などをしっかりと把握していく。また楽曲の構成など全体が見渡せるようにしていく。楽曲の理解度を深めることにより、よりクリエイティブなベースラインを構築できるようになることを目的とする。卒業ライブにおけるオリジナル楽曲のベースラインアレンジが潤滑及び早くできるようにトレーニングを重ねる。											
到達目標											
譜面をしっかりと読むと同時に、譜面にある必要最低限の情報からの表現力の幅を広げていく。オリジナルベースラインを楽曲を理解した上で、最善のものをクリエイトできるようにすることを目指す。既存の楽曲のオリジナルラインを変化させ独自のラインを構築できるようにし、それを他の楽曲に反映させることができるように知識も習得していく。											
授業方法											
課題とする音源・譜面から構成などを説明。また、ジャンルの違いによる演奏のアプローチについても解説。基礎トレーニングを踏まえ、合理的な（スムーズな）運指を瞬時に判断でき実演できるようにトレーニングを行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
五線紙は必ず用意し、常にメモは取ること。第三者が見てすぐに理解できるような明確な表記を心がける。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受けることはできない。日々の反復練習を欠かさず行う事。配布資料・譜面は毎回必ず持参すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ここまでの内容の確認										
第2回	音とポジションの把握										
第3回	音とポジションの把握										
第4回	#系キーにおける音とポジションの把握										
第5回	b系キーにおける音とポジションの把握										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-a-Ba	
第6回	調による臨時記号表記の違い
第7回	反復記号（リピート）についての理解
第8回	反復記号（D. C. , D. S. , Codaなど）についての理解
第9回	既存曲を用い、反復記号を読み解く
第10回	既存曲を用い、より複雑な反復記号を読み解く
第11回	既存曲を用い、自身で構成譜を作成してみる
第12回	調号・ヘ音記号読譜・スケール・ポジショニング・音価の復習
第13回	アーティキュレーション・リズム譜読譜・音価のコントロールの復習
第14回	構成把握・臨時記号におけるフィンガリング・ポジショニングの復習
第15回	全体の総まとめ

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-b-Dr											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越彰			実務 経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜し、パフォーマンスをできるように自身の音にしていくこと											
到達目標											
Voアンサンブルやインストアンサンブル等の楽譜やリードシートを音楽的解釈を持って演奏する事。 また、それらを暗譜し、パフォーマンスをできるように自身の音にしていくこと。											
授業方法											
次の時限に行われるVoアンサンブルの授業の楽曲を確認しつつ、 その曲で使われるであろうリズムパターンやフレーズを演奏する。 メトロノームや音源を使い、音符休符、テンポ、ダイナミクス等、音楽的表現の練習。 麻生、藤本、2 班に分かれて実習。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
遅刻はしない。迅速なドラムセッティングが出来るよう心掛ける。会話してるとき等に無駄な楽器の音を出さない。 理解出来なかった事は質問する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	前期前半の復習、バリエーション										
第2回	前期前半の復習、バリエーション										
第3回	各パターン練習										
第4回	ジャンル別のニュアンスの理解										
第5回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-b-Dr	
第6回	各パターン練習
第7回	各パターン練習
第8回	ジャンル別のニュアンスの理解
第9回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈
第10回	各パターン練習
第11回	ジャンル別のニュアンスの理解
第12回	アンサンブル時のダイナミクス、フィーリング等の解釈
第13回	各パターン練習
第14回	後期まとめ
第15回	リーディングテスト

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-b-Gt											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	篠崎保			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	前期同様課題曲を決めその楽曲をリーディングしながらスキルや理論を学んで行く										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-b-Gt	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	機材の扱い方や、音作り等の解説
第9回	男子、女子各1曲ずつ合わせリーディング
第10回	男子、女子各1曲ずつ発表
第11回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上
第12回	楽譜でのリーディング能力の的認
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ、発表
第14回	課題曲の総復習 ステージパフォーマンス確認、リハーサル
第15回	課題曲の総復習 ステージパフォーマンス

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-b-Key											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	杉山泰			実務 経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、鍵盤楽器におけるあらゆる基礎となる知識、奏法について学び、プロとして必要な演奏技術と、プロとして最低限の読譜力を養うのが目的です。と同時に、音楽においてだけでなく、実社会において全ての事象には学ぶことや、考えること、思考の必要性の重視も説いていく事を目的とします。											
到達目標											
この科目では、学生が鍵盤楽器の読譜や奏法を基礎から学び、プロとして必要な技術、曲づくりへの発展、様々なジャンルへのアレンジにおいて必要な技術などをキーボードを使って学び実践して行く事を目標とします。											
授業方法											
この授業では、鍵盤楽器を使って様々な音楽的素養と、演奏における技術、そして特に必要な読譜力を養うのが主な目的であり、それに伴い、作曲、アレンジ力を養うための技術も身につける。教室には各個人に1台のキーボードを用意し、実施する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	テンションコードの実践、初見										
第2回	テンションコード全般の実演の総復習										
第3回	主に洋楽と邦楽のリーディング的思考の相違と、テンション感の使い分け 応用										
第4回	ジャジーなサウンドの楽曲のコード分析と初見 応用										
第5回	実践 課題曲を使用して譜面の初見										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-b-Key	
第6回	プロ的实践 課題曲を使用して譜面の初見
第7回	今までの譜面の初見を活かして プロ的实践
第8回	ジャズの初見を解説し実践
第9回	ジャズの初見とインプロを解説し実践
第10回	ジャズの初見とインプロを課題曲を使用し実践
第11回	インプロしながらの初見を解説し実践
第12回	課題曲を使用しインプロしながらの実践的初見
第13回	課題曲を使用して他楽器とのアンサンブル
第14回	課題曲を使用して他楽器とのアンサンブルで課題曲を初見で行う
第15回	アンサンブルの発表・評価

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-c-Bs											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	上野一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
この科目を受講する学生は、音楽活動を通じて今後の社会人として求められるコミュニケーション能力と、音楽家としての自己表現力を高めることによって自己鍛錬の必要性と喜びを学び、また他者との価値観の相違の認識と受容を繰り返すことで、幅広い人間性と社会性を持つことの重要性を理解することが目的である。											
到達目標											
この科目では、自身の楽器をより専門的に表現力や判断力を高めることで創造的に表現できる力を身に付け、自己表現の喜びと他者との共感力を養うことと、日々の自己鍛錬の計画と実行の積み重ねによって得られるものがいかに重要であるかを理解することを目標とする。											
授業方法											
この授業では、毎週学生の理解度をヒヤリング・チェックしながら進める。他者の問題点が自己の問題と共通あるいは類似のことも多く、問題解決しながら進めていく。授業中の積極的発言も自己表現の一つと考え、疑問点や問題点をできる限りその場で解決しながら行っていく。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、受講の態度や出席数はもちろん基本的なあいさつやマナーなど一般社会の一員としてあるべき行動を求める。授業内の問題点は必ず質問またはメモに残して解消していくこと。授業内で配布されたプリント等は常時持ってくること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	テーマをベースで弾く（Affordable）										
第2回	16分音符の4つ目のグループとミュート										
第3回	EmペンタトニックとAmペンタトニックを弾き分ける（共通音と特徴音の理解）										
第4回	テーマとベーシックパターン・リフとアドリブフレーズ										
第5回	ディミニッシュスケールとハーモニクマイナースケール										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-c-Bs	
第6回	saxソロをコピーすることで表現の幅を広げる
第7回	コード進行に沿ってコードトーン(Root、3rd、5th、7th)を弾く
第8回	Root以外の音(3rd、5th、7th)から弾き始める・転回形の理解と実践(1)
第9回	Root以外の音(3rd、5th、7th)から弾き始める・転回形の理解と実践(2)
第10回	2nd、6thの効果的なリフ
第11回	コードアルペジオの転回形
第12回	4ビート・マイナーブルース
第13回	シャッフル・A7ブルース
第14回	ボサノバパターンと16ビートマイナーランニングパターン
第15回	後期課題曲 Affordable, Don't Look Down, Take Your Time, Stop It

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-c-Dr											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	麻生祥一郎			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
プロの現場に対応する為のプラスアルファを習得する授業。ドラミングをさらにふくよかにする為のテクニックを伝授していく。基本的な技術力と応用力を習得し、アンサンブルの中でのリズムセクションの中心的役割を担い、即興的な対応力を身につける。演奏力の向上に一番大事な基礎力を重点的に行う。スティックの握り方、叩き方など、意識していなかったものを意識しながら、演奏することが大事になる。プロドラマーになる要素として、自分の演奏を細分化し、客観的に観る視点が大事になる。2年間を通じて、プロの現場で通用する、客観的な視点、アレンジする能力を習得する。											
到達目標											
リズムに対するノリを意識できるドラマーを育成する。ドラマーのスウィング感がアンサンブルの良し悪しを決定することから、ドラマーの自身のリズムに対する責任、考え方を習得する。ドラムの基礎を重点的に学び、自らのドラミングに即座に反映することを目的としている。1年次には、8ビート、16ビート、シャッフルビートの応用を習得し、毎回発表会形式で、自らのプレイを人前でプレイする機会をつくり、講師からフィードバックが戻る形式にしている。アクセントコントロールなど基礎中の基礎を時間をかけて行い、授業外の練習の重要性など、テクニック以外の考え方なども伝える。											
授業方法											
ドラムセットによる演奏の他に、ドラム練習台によるスティックコントロールに多くの時間を掛けます。ドラミングの基本は基礎。ドラムセットによるグルーブとフィールの習得、他の楽器とのアンサンブルによるリズムセクション形成方法と即興的アプローチを発表会形式で講師、学生の前で披露する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グルーブワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
出席率を重視する。個々の目標に積極的に向かっていき、定期的にその目標が近づいているのかどうかを客観的に精査する。個人練習の時間をしっかりと取ることも重要である。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	前期の振り返りと後期に向けて個人目標の確認										
第2回	ゴースト・ノートの概念と叩き方を理解する										
第3回	ゴースト・ノートの入れ方、定番フレーズを習得する										
第4回	シングルストロークとダブルストロークの叩き方の違いを理解する										
第5回	音の粒を揃える、テンポチェンジしても綺麗なダブルストロークを習得する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-c-Dr	
第6回	8ビートフレーズにフィルインの入れるタイミングを習得する
第7回	16ビートフレーズにフィルインの入れるタイミングを習得する
第8回	フィルインから始まるフレーズを習得する
第9回	8ビート系楽曲のグルーヴフィーリングを習得する
第10回	16ビート系楽曲のグルーヴフィーリングを習得する
第11回	バウンス系ビート系楽曲のグルーヴフィーリングを習得する
第12回	片手による3連フィーリングの習得
第13回	両手による3連フィーリングの習得
第14回	ドラムセット全体で三連符フィーリングフレーズを習得する
第15回	8ビート、16ビート、バウンス系ビートの中から、ビートを選択し、オリジナルフレーズを発表する

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-c-Gt											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	穴倉聖悟			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
ペンタトニックスケールから発展し、様々なスケールを習得していく。スケールの選択によっては、ピッキングも重要になってくる。エコノミーピッキングや、スウィープピッキングなどより表現の幅を広げる授業。コードチェンジに対し、素早く反応して適切なフレーズを弾けるようになり、自身のパートアレンジも含め、幅広く音楽に生かしてゆく。現場ではあらゆるジャンル、コード進行に対しての対応力のある演奏力が求められる。自身が弾いているフレーズが何のスケールの何番目の音なのか、選択したスケールは正しいのかを意識できる音楽家の育成を目的としている。テクニク、知識、演奏スキルを身に着けることにより、自身のスタイルをプロデュースできるように育成していく。											
到達目標											
ギターのフレーズをメロディアスに弾けることを目標としている。ペンタトニックスケールのみならず、さまざまなスケールをミックスすることにより、より現場対応力のあるギタリストを育成することを目標としている。ピッキングの表現力を身に着けることで、現場対応のソロを弾けるようになることを目標とする。自身のプレイをしながら、コード進行、コードトーン、使用出来るペンタトニックスケールを常に頭の中で分析できるギタリストになることを目標としている。ペンタトニックスケールの音階を完璧に理解し、ペンタトニックスケール以外のスケールへの足掛かりを作る。											
授業方法											
ペンタトニックスケールのみならず、ボサノヴァのバックイングなど様々なジャンルを習得していく。多くのスケール等を説明し、参考フレーズを元にソロを弾けるように反復練習する。授業内では必ず読譜が必要になる。コード、スケールを理解する上で、ポジションで覚えることも重要だが、譜面をしっかりと読み込み、譜面を読める音楽家への成長を促す授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
必ず五線紙を用意し、授業内容のメモを取ること。新しい事を身に付ける為には、相当量の練習が必要であり、授業以外の時間にも出来る限り多く練習が必要となる。授業内では、反復練習のエクササイズ、譜面の読み方、譜面書き方、現場での譜面の扱い方などもレクチャーする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ミクソリディアンスケールを開放弦をいれたフレーズの習得										
第2回	プリングオフ、ハンマリングオンを使ったm7thの音を意識したフレーズの理解										
第3回	m7thの音を意識した複数弦を使用したフレーズを紹介、理解										
第4回	コードトーンを使用してのアドリブソロの理解										
第5回	ローポジションのペンタトニックスケールの理解										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシック レッスン2-c-Gt	
第6回	ハイポジションのペンタトニックスケールの理解
第7回	テンションコードを入れたコードバックキング
第8回	リディアンスケールの構成音を理解、習得
第9回	マイナーペンタトニックスケールにテンションを入れてフレーズを作成、理解
第10回	8ビート、16ビート上でのフレーズの習得、理解
第11回	ハイポジションにおける、アルペジオフレーズの習得、ピッキングの理解
第12回	ハイポジションにおける、アルペジオフレーズを作成し発表
第13回	エコノミーピッキングの紹介、理解。使用出来るフレーズの習得
第14回	エコノミーピッキングフレーズを作成し発表
第15回	ブルースコード進行に合わせ、習得したスキルを入れたソロを発表

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-c-Key											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	二本柳一明			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
音楽の各ジャンル;ロック、ファンク、ライトファンク、ブルース（メジャー・マイナー）、ボッサ、スウィングなど多様なスタイルに応じた即興演奏を身に付ける。テーマ演奏の為の譜面の確認 コード進行の確認 様々な記号を含め、譜面を理解し曲を覚え、アンサンブルができるように指導する。											
到達目標											
1年次は学校で用意した課題曲を演奏できる様にすること。Sweet (Rock) I Just Wanna Be With You (minor Blues) Do It Now (Major Blues)Leave Me Alone (Funk) Affordable (Light Funk) Don’ t Look Down (Rock) Take Your Time (Bossa) Take Your Time (Bossa)Stop It (Swing)などの曲を課題曲とする。											
授業方法											
各自ピアノ（キーボード）を一台ずつ用意して講師と共に演奏して学ぶ。 4 リズムアンサンブルの授業の準備内容を主に勉強するが、ソロピアノでのインプロビゼーションも並行して学ぶ。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
筆記用具と五線譜ノートを持参し、授業内の実践での内容を五線紙にメモしていく。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	2 年次でつかうモーダルフレーズの解説										
第2回	トータルセンター（主音）の意識を持つ										
第3回	16ビート 7コードとミクソリディアンスケール										
第4回	16ビート 7コードとミクソリディアンスケール課題曲を用いて実践										
第5回	16ビート トライトーン										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシック レッスン2-c-Key	
第6回	16ビート アポイドノートの概念
第7回	16ビート ミクソリディアンを使ったアドリブフレーズ
第8回	16ビート ミクソリディアンを使ったアドリブフレーズ課題曲を用いて実践
第9回	16ビートのコンビング
第10回	ハーフタイムシャッフル マイナーコードとドリアンスケール
第11回	ハーフタイムシャッフル スケールの特性音
第12回	ハーフタイムシャッフル ドリアンを使ったドリアンフレーズ
第13回	ハーフタイムシャッフル ドリアンを使ったドリアンフレーズ課題曲を用いて実践
第14回	ハーフタイムシャッフルコンビング
第15回	課題曲の発表会

ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース											
ベーシックレッスン2-d											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	鈴木一義/上野一郎 二本柳/麻生祥一郎/藤本健一			実務 経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
メジャーレーベルアーティストのサポートプレイヤーとしてコンサート実演、レコーディング等の実務経験を持つ。 他長年にわたり個人やグループ等の器楽技術、音楽理論等のレッスン経験を有する。											
授業概要											
スコアリーディング向上、アンサンブル向上、各パート楽曲に合わせアンサンブルを実践しながらスキルを向上する授業。奏でているフレーズのリズム、音符の長さ、表現方法など意識できるようにする。他の楽器と合わせる時には、全員がリードスコアを読み、小節の進行、リビートマークなどの臨時記号に対応できる現場能力を育成する。各パートと合わせることで、自分以外の楽器への理解も深まることを目的としている。											
到達目標											
3週間に1回、全コースとアンサブルの授業を行う。同じ楽曲であるが、さまざまなプレイヤーと合わせる事で、現場への対応力を養う。同一譜面を読んでも、プレイヤーによって奏でるフレーズは十人十色であることを知る。その中で自分の個性を発揮できる経験と知識、スキルを得ることを目標とする。この授業はプレイヤーコース内のコミュニケーションを図る上でも重要な授業であり、コミュニケーションがスムーズなセッションほどクオリティーがあがることも経験として知る授業となっている。											
授業方法											
この授業では、3週分使い2曲を仕込む。各パート1週目男子曲、2週目女子曲（入れ替わり可能性有り）3週目全体合わせとする。3週目にはライブ形式で演奏を行い。演奏者ではないプレイヤーは客席で演奏を視聴し、演奏者たちにコメントをする。即時にフィードバックが帰ってくる授業。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
この授業では、全ての授業を出席しなければ。仕込み等は自分で仕込んでくるものとする。全体合わせの加、自らの仕込みも開り、授業の欠席等で演奏ができない学生は全体あわせに参加させない可能性もある。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各パートごと課題曲のリーディング										
第2回	楽器陣のみで曲の全体合わせ										
第3回	Vo。と共に全体合わせ										
第4回	男子、女子各1曲ずつ合わせ										
第5回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／プレイヤーコース	
ベーシックレッスン2-d	
第6回	楽譜でのリーディング能力の的認
第7回	メトロノームを使ったり、よりプロの実践的アンサンブルを加える
第8回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第9回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第10回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第11回	楽譜通りに演奏、足らないスキルの向上
第12回	楽器陣のみで曲の全体合わせ
第13回	男子、女子各1曲ずつ合わせ
第14回	後期試験発表 ステージパフォーマンス
第15回	後期試験発表 ステージパフォーマンス